



父母と学ぶ会だより

NO. 26 研修報告号～H27年11月発行



平成27年10月27・28日

強度行動障害支援者養成研修

講師 静岡県発達障害者支援センター 岡田 祐輔 氏 他6名

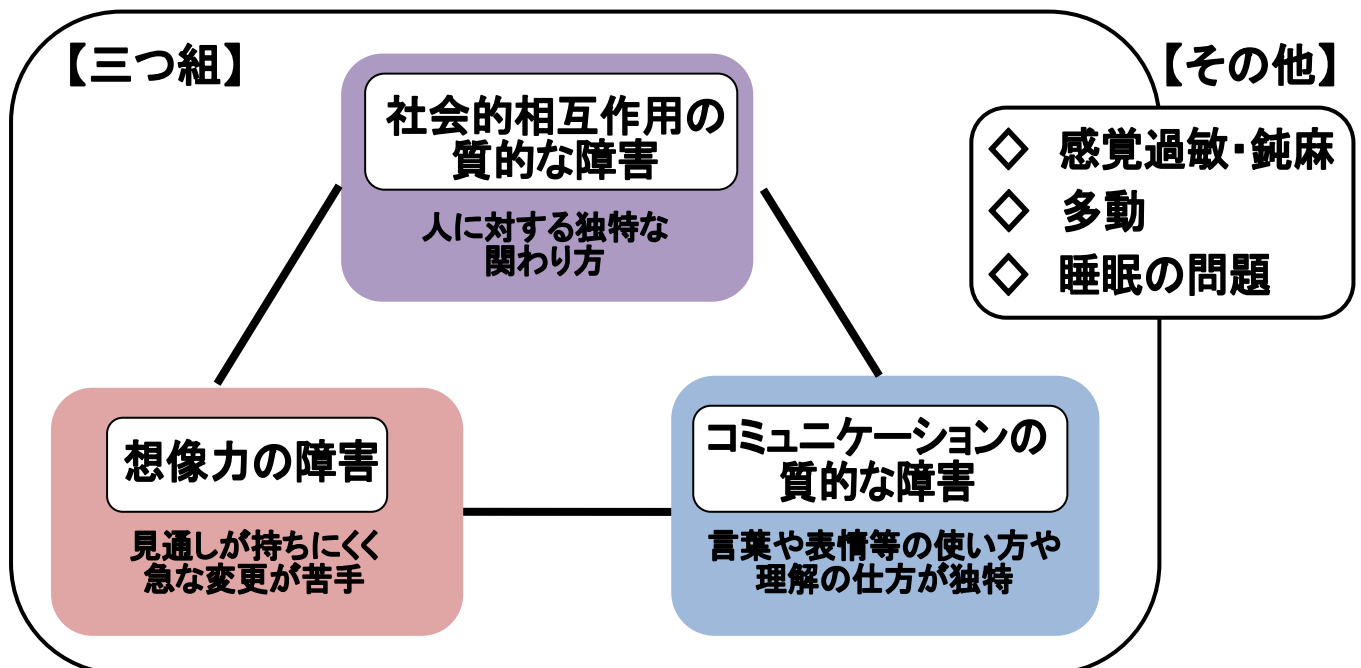
私は静岡県産業経済会館で行われた強度行動障害支援者養成研修を受講しました。強度行動障害とは、直接的他害(噛みつき、頭突き等)や、間接的他害(睡眠の乱れ、同一性の保持等)、自傷行為等が通常考えられない頻度と形式で出現し、その養育環境では著しく処遇の困難な者であり、家庭にあって通常の育て方をし、かなりの養育努力があっても著しい処遇困難が持続している状態と定義されています。行動面では具体的に自傷、他害、器物損壊、異食行為、睡眠障害等が現れます。また強度行動障害を有している人の多くは、知的障害や自閉症を伴っています。処遇困難な強度行動障害ですが、適切な支援を行うことにより他害行為等の危険を伴う行動の回数が減少する等の支援の有効性も報告されています。適切な支援を行うためには、まず自閉症の特性を知っておく必要があります。

自閉症には3つの代表的な障害があります。まず、社会的相互作用の障害です。人に無関心なため名前を呼ばれても反応しなかったり、相手の反応を気にせず一方的に話しかけてきたりします。

次に、コミュニケーションの質的障害です。言われたことの内容が分からないため、オウム返しで答えたり、自分の気持ちをうまく相手に表せず、パニックや自傷で伝えようとします。

最後に想像力の障害です。物事の先の展開が読めず不安になったり、急な予定の変更を苦手としています。これらの障害によりわからないことや伝わらないことが、様々な環境要因と重なり強度行動障害が強化されてしまいます。(↓裏面につづく)

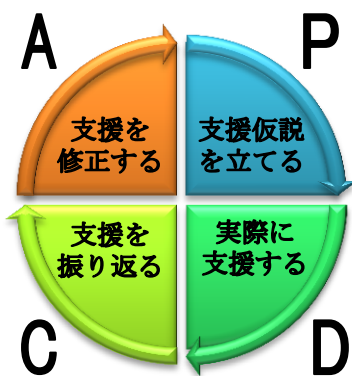
自閉症とは:三つ組の障害



それを防ぐためには構造化という手段が有効とされています。構造化とは、伝えたい情報をその人の苦手な部分を補いながら、一人一人の能力に合わせて伝えていくことです。代表的なものとして、今後の予定を示したスケジュールを提示します。スケジュールが分かると、視覚的に時間の流れが理解でき、安心して行動できるようになります。

ここで重要になるのは、構造化をする前に本人を評価しなければならないことです。評価するのは、現在のスキルや興味・関心、情報の捉え方・処理の特徴等です。本人の状態を知った上で適切な活動・必要な構造化・効果的な教え方を提供しなければなりません。また、構造化は一度行ったら終わりではありません。提供した構造化が本人に合っているか再評価し、合っていないければその都度修正する必要があります。

今回の研修では強度行動障害について、多くのことを知ることができました。この研修で学んだことを日々の支援に生かし、役立てたいと思います。
(文責 平井 勝)



支援におけるPDCAサイクル

P：プラン
D：ドゥ
C：チェック
A：アクション

日々の支援をする上では、行う支援について仮説を立て、実際に支援を行い支援内容を振り返り、本人に合ったものに修正していくことが求められる。

研修報告

平成27年度通所施設連絡会 職員研修Ⅱ 27年10月28日
～施設における感染対策～ 講師 榛原総合病院 大石みどり 氏



10月28日に通所施設連絡会 職員研修Ⅱに行ってきました。榛原総合病院の大石みどり先生による講義が行われました。感染対策についてどのようにしていけばいいのかを紹介していきます。

最初に感染予防についてです。感染の可能性のあるものとして、①血液②人から出る汗以外の湿ったもの（痰や傷からの浸出液など）③排泄物、嘔吐物④傷ついた皮膚（けが・湿疹など）が挙げられます。これらのものに触れないようにするためにマスク、エプロン、手袋は必ず付けます。着ける時は①マスク②エプロン③手袋の順にしていき、外していく際は①手袋②エプロン③マスクの順になります。汚れている物から順番に取っていきます。マスクをする際のポイントとして鼻当てが上になるように着けること、鼻当てを鼻にフィットさせるように折ること、マスクを鼻の上まで広げ鼻が隠れるようにすることが挙げられます。

最後に汚物処理についてです。まず、嘔吐してしまった人を隔離した後、部屋の換気をします。次にマスク、エプロン、手袋の順で着用します。その際にゴミ袋、消毒薬、ペーパータオル等も準備します。そして嘔吐物を取り除きます。外側から内側に向かって拭き取っていきます。その後、洗浄剤で汚れを取り、水拭きをします。最後に次亜塩素酸溶液で消毒して1分以上放置します。水拭きをし、手袋、エプロン、マスクの順で外してゴミ袋に入れて廃棄します。終わったら石鹸で手洗いをして汚物処理が終了となります。

これからインフルエンザやノロウイルスが流行ります。感染症には気をつけましょう！

(文責 溝口 諒)